

メタバースを活用した発表会の運営に携わる生徒ら



### 横手清陵高生が企画運営

仮想空間（メタバース）を活用した「バーチャル探究発表会」が横手市の横手清陵学院で開かれ、高校生がアバター（分身）を使って探究活動などの成果を発表した。同学院の中学生のほか、近隣の小学校や高校の児童生徒も参加し、メタバース上で交流を深めた。

発表会は校内の清陵ホールを模した「メタバース清陵ホール」で1月29日に実施。国の「DXハイスクール」への採択を受けて校内に整備した「クリエイティブ・ラボ」を配信拠点とし、仮想現実（VR）などをテーマに

探究活動に取り組む高校生1、2年生9人が当日の司会進行や事前準備に当たった。

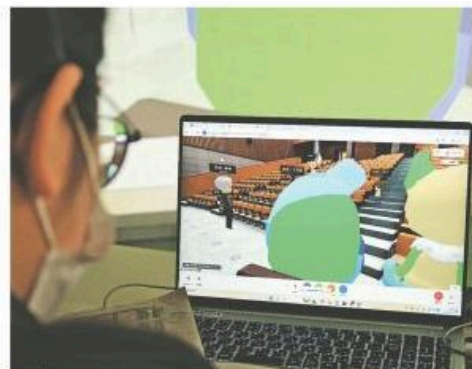
同校と平成高校（横手市）が発表校として参加。各校の代表者は順番が来るとアバターを動かしてステージに登壇し、活動

# 仮想空間使い 探究発表

### 活性化策など 小中学生も参加

内容をまとめたスライドを映し出しながら、10分弱のプレゼンテーションに臨んだ。特産品を通じた地域の活性化策や海外への留学体験、火星への移住計画など計八つのテーマで発表し、終了後は質疑応答を実施した。山内小学校（同市）の5、6年生も遠隔で視聴した。

当初の予定よりも時間がかかったり、音声が聞こえなくなったりといったトラブルにも見舞われたが、生徒は知恵を出し



清陵ホールをイメージしてつくられた仮想空間（メタバース）

合って臨機応変に対応していた。司会役を務め、運営の中心を担った吉本稟さん（2年）は「良い会にしたいとの思いで頑張った。顔が分からない人同士でも一体感を生み出すことができるのがメタバースの強み。これからも探究を続けたい」と語った。

（石川彩乃）